

三年生分科会

参加者 二十八名  
まとめ 湯浅 治美

○イメージ化の力を育てる

～音読・読解・お話五七五～

岡 篤

「底上げ 心地よさ さじ加減」を意識して学級経営をしてきたとのこと。その取り組みの様子や成果のレポートだった。縄跳びでは「底上げ」のため基本の技能の練習に取り組み、少しでも成長した児童はみんなの前で発表し、友だちから認められる「心地よさ」で、より力を発揮すると共に、やる気の継続につながったとのことだった。学校全体で取り組み「立腰」を生かし、膝を上げる等の筋力アップの工夫を加えて、集中力や姿勢の維持につなげている取り組みは実践してみた。ふわふわタイムでは、子どもたち同士が認め合うことで、人格の完成を目指しているとのことだった。

○みんなが伸びて、一人が伸びる

森崎 麻里

日記指導は、したこと作文にならないよう「発見ノート」とし、気付くことを大切に指導しながら漢字の指導も同時に行っていた。連絡帳に書く漢字も丁寧にチェックし指導していた。計算の指導は、班の児童の力を生かしていた。こうした日々の指導の積み重ねが子どもの力になっているのを感じた。

○唱えて、書いて、確かめ合う

漢字学習 川崎 和代

楽しく学習しながら力をつけていきたいと、漢字指導の実践が紹介された。新出漢字は丁寧に指導し、リズム漢字では、CDに合わせるだけでなく、どんぐりころころの節等で唱える工夫をされていた。教師がわざと間違えて書いたテスト答案を、子どもが採点する「採点コンテスト」によって子どもの漢字を書く意識を育てる取り組みは、画期的に思えた。

四年生分科会

参加者 三十六人  
まとめ 荒井 賢一

○子どもも教師も楽しんで！

～学力づくり・授業づくり・学級づくり～

中村 力

楽しさとチームづくりが、中学年では有効と中村先生は言います。そのために、ことわざカルタを取り入れ、ルールを守る心地良さに気付かせていくのです。また、百マス計算は、最強の学級づくりツールであるとして、①「君の相手は、昨日の自分。」②努力が正比例することの体感。③格差が縮小する。成長観・やる気を高め、学力向上へとつなげていくそうです。国語の授業では、①音読②自分の考えを書く。(予習) ↓③話し合う。(交流) ↓④再び、自分の考えを書く。というワンパターンが、子どもたちを向上的に変容させるそうです。

○自主学習でキラキラ！

鈴木 可純

目の前の子どもたちに幸せな人生を歩んでほしい。自分で考える力をつけてほしい。そのために、自主学習を取り組むそうです。

①題名や②小見出しをつける。  
③記事をかこむ。④イラスト、キャラクター、カットを入れる。  
⑤読みやすい字で書く。⑥自分の感想や疑問を入れる。⑦見開き2ページにぎっしりまとめる。  
など七つの技が学べました。

○『こんざつね』

～言葉にこだわる国語の授業づくり～

荒井 賢一

兵十はかけよってきました。この一文だけでも一時間の授業ができるのが国語の良さである。言葉にこだわることで、作品の主題に迫ることができ、国語力もついていく。